

## テーマ：新改定バリアフリー法と長崎市の街づくり

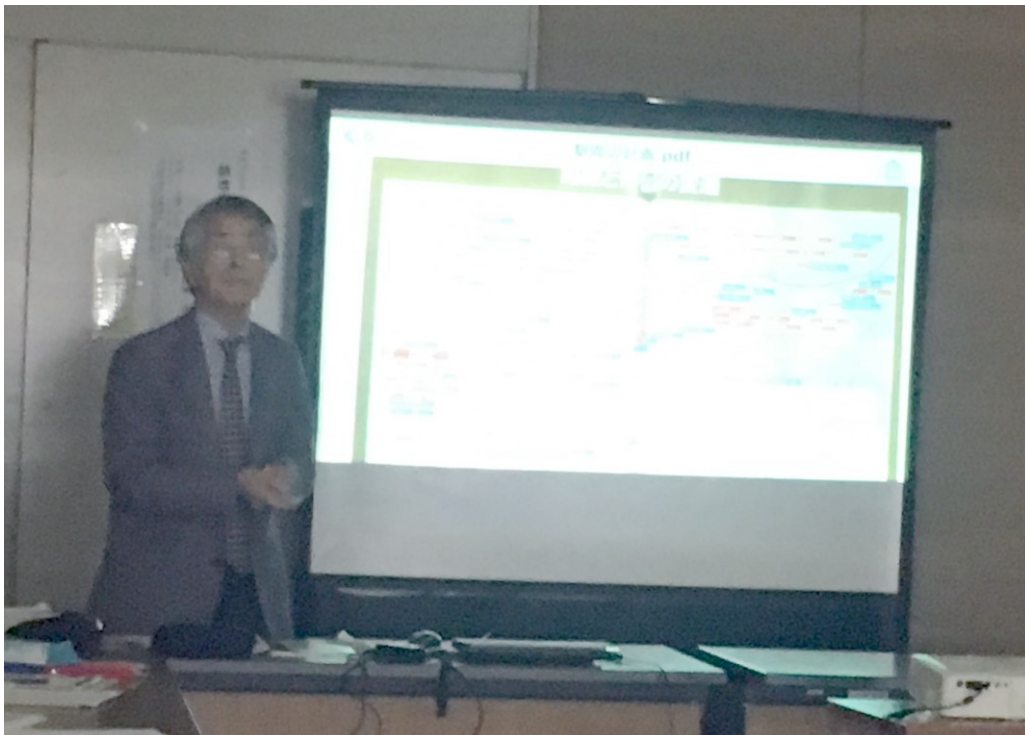
講師：建築家・芸術工学博士 中村享一氏

H30.04.28 AM10:30-PM12:00 ハートセンター5階会議室

講師:1名 参加者:4名 NPO:5名 計:10名

### 【内容】

今回のテーマは、「新改定バリアフリー法と長崎市の街づくり」と題し、建築家・芸術工学博士 中村享一氏が講師で、建物との導線が使いやすいまちづくりは何かを建築家の意見として、長崎市の現状と今後の課題提起の話を行った。



建物と移動環境の両方のバランスに重点を置き、移動可能な環境づくりという点で、3点の重要ポイントとして掲げられていた。それは、1点目として、バリアのないルート<sup>①</sup>の確保 [可能な限り最短距離で、高低差が少なく、見通しがききわかりやすいルートと空間を連続的に確保すること。2点目として、わかりやすいルート<sup>②</sup>の確保 [空間構成、様々な表示サイン、音サイン、人的対応など

を有効に組み合わせ、誘導を適切に行うこと]。最後の3点目として、安全で使いやすい施設・設備 [必要な施設・設備 (乗車券等販売所、待合所、案内所、トイレ等) をアクセスしやすく、安全で使いやすく整備すること]。と要点をまとめられていた。

その中で、動くこと、見ること、聞くこと、伝えること・理解することに困っている人への配慮という点で、利用する人達の事を想像しなければならないと注意喚起されている点を念頭に考えた場合、長崎の今回の駅周辺の変化に照らし合わせると、移動への配慮が繋がってない点が改めて問題定義としてなされ、加えて、環境や事象による困る方の能動的まちづくりへの参加も今後のカギという事も今回の話を聞き、改めて参考になった。

### 【アンケート回答】

A.内容に対する感想の度合 3/4 回答

大変参考になった3件

B. 参考になった点や判りにくい点などの感想

- 「当事者参加」これからのキーワードになると思います。
- 兵庫県だったか (はっきりおぼえていないのですが)、条例で当事者と支援者が組んで街を点検するというのがありました。継続的にすることを長崎でも取り入れてほしいです。
- バリアフリー新法について、認識を新たにできました。
- 当事者が声を出す必要があった。

D. 開催に対し、改善・希望内容

- 公共トイレの今後の在り方。(トイレのバリアフリーについて、もっと考えていきたい)
- 公共施設の建設における市民の声の繁栄の仕組みについて
- 最新の制度

E.NPOへ問合せ・希望など

長崎アーパニスとの日程を知りたいです。

セミナーには市議・県議を入れる事

G.職種分野

障がい者及び家族関係者 2名 その他 1名

H.職種 所属・資格等

障害者又はその関係家族・関係者 2名 まちづくりファシリテーター1名

I.開催の情報の入手の媒体

チラシ・ポスター 1件 お知らせメール 1件 知合い・職場 1件

J.今後の興味(複数回答あり)

1.福祉 2件(情報支援 1件) 交通 1件

福祉情報支援セミナー事業

《リビング福祉セミナーコース》